

2016年 CSA ワーキング・スタディ・ツアー
参加者アンケート
参加者感想文

2016年CSAワーキング・スタディ・ツアー アンケート

松 井 裕 一(連合・連帯活動局)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

・CSAが支援している事業に関して、現地を訪問して実際に見ること、聞くことができたことです。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・CSAの支援事業に対して、現地の方々が心の底から感謝しているのだなと感じたことです。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・訪問先の代表者の挨拶で、必ずと言っていいほど感謝の言葉から始まっていたことから、大変評価されていると感じました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・とても充実したスケジュールでした。ただし、今回は連日晴天でしたが、悪天候の場合は、訪問地域によっては移動が難しいのでは、と感じました。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・なくてはならない活動だと思います。「支え合い、助け合う」ということを身を持って体験することができる活動でした。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

・支援を行っている学校や施設では、修繕の要望が多くありました。そのような部門の支援はもちろんなのですが、技術者の育成も場合によっては必要なのかもしれないと思いました。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

・多くの方に知っていただき、共感していただくことではないでしょうか。活動報告資料の配布をはじめ、容易ではないかもしれませんが、広報活動をより充実することができれば良いと思います。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

・継続された方が良いと思います。現地を訪れることに関しては、同じ組織の方々と、というのもメリットはたくさんあるでしょうが、異なる組織の方々と、というところに大きな意味があると感じています。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか?

- ・団員の皆様からとても刺激を受けた等、得ることしかありませんでした。今後も少なくとも年に1回は全員が集まり、今回の思い出話に花を咲かせたり、近況を話したり、個人的には組合活動について、もっともっと勉強させていただければと思っています。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか?

- ・塩坂博史団長のきめ細かな気配りや心配りをはじめ、団員の方々が協力し合っ常
に良い雰囲気を作っていました。素晴らしいチームワークだったと強く感じています。

塩 坂 博 史(UAゼンセン・サニーマート労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・衣料支援ボランティア活動の最初(協力要請・衣料品カンパ)～必要としている現
地の人々に届くまでの一連の流れを自分の目でしっかりと見られたこと。
- ・現地の人たちと交流して話をする機会に恵まれたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・CSAのこれまでの地道な活動に対して、現地の人や政府機関の方たちから非常に感
謝されており、支援が届いていることを知ることができたこと。
- ・我々の訪問を心からおもてなしの気持ちをもって迎えていただいた、そして、逢う
人たちの笑顔が素敵であったこと。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・長い支援の歴史があって、双方の信頼関係も深く感謝されていると感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・スケジュールは特に問題なく、政府関係者をはじめ現地の受け入れ態勢、衣料保管
庫および小学校の訪問、CSA寮訪問等々、もりだくさんの訪問先で交流し話がで
きたことは、相手の国や現地の人たちを知ることができた点については非常に有意
義であった。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・一過性ではなく地道な支援を継続しておこなうことが重要だと感じた。予算との問
題もあるが、現地の状況もしっかり確認しながらニーズを把握すること、フォロー
アップのスピードも必要であると思う。もっと現状をアピールしながらCSAの支
援活動の広がりも必要だと思う。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・できるだけ現地のニーズに対して応じることができるように、日本国内の支援者や
支援団体を広げる取り組み活動も必要だと思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・活動の広がり、現地でのいろいろなことを見て感じてきた人が思いを伝えることが一番、できるだけ多くの人に参加できるようにすることが大切だと思う。
- ・参加者同士のネットワークも必要。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・国として立ち上がることができるようになるまで支援は必要だと思う。
また、発展途上の時々のニーズに合わせた柔軟な支援（あり方）も必要だと思う。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・それぞれの組織の考え方や支援への思い、取り組み状況について情報交換ができ、今回の行程を一緒になってチームとして行動できたことは非常に良かった。
短い期間でしたが、非常に得るものが多い1週間でした。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・それぞれが役割（挨拶・記録・写真・交流担当）を毎日変えながら実施することは、全員が主体性をもって参画するという意味では非常に良かったと思います。
今回の参加者は年代も近いこともあり、交流も非常に深まりお互いを知り協力できたと思う。

彦坂 健太(UAゼンセン・帝人労働組合岩国支部)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・ラオス、タイの国内事情を知るきっかけになって良かった。
- ・今回の活動の意義や今後どう考えて行動していくか考えさせられるツアーだった。
- ・初めての海外だったが諸先輩方の指導の下、行動でき今回のメンバーに会えて本当に良かった。自分の価値観が変わるスタディ・ツアーだった。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・ラオスにおいて貧困国ではあるが小学生～高校生と交流し、1人1人に夢が有り前向きな子が多くキラキラした目が特に印象的だった。
- ・タイ、ラオスにおいて自分達の衣類、カンパ等が役に立っている事が現場を見てより実感する事が出来た。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・どこに行っても冒頭の挨拶でこの活動に大変感謝している今後も続けて行って欲しいと言われこの活動は大変喜ばれていると思った。今後も続けていく必要があると思った。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・充実したスケジュールだったと思う。個人ではなかなか行けない所で話を聞いた事、交流ができて良い経験になった。19日のスケジュールは少し多忙だった為か、なかなか頭の中を整理するのが難しかった。
- ・タイでの学生等との交流等もしてみたかった。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・素晴らしい活動だと思った。CSAの活動が現地の方に喜ばれているのが良かった。
- ・実際に衣類の保管場所など自分の目で見ることで状態を確認し現地の人と話しその活動の意義を理解できる素晴らしい活動だと思う。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・少しでも貧しい方に衣類、勉強しやすい環境作りを提供できる為に新しい呼びかけなどが必要だと思った。
- ・現地でも建物など修復できる様、技術支援、教育などの活動をしてほしいと思う。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・今回、話しにもあったが衣類の送料の問題についてなどカンパなど新しい試みができたら良いと思った。呼びかけ（新しいPR）が必要だと思った。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・とても有意義な活動なので一人でも多くの方に参加してもらい沢山の方に肌でいろいろ感じて欲しい。
- ・今回、自分も参加して思ったのは普段感じる事が出来ない体験ができるのは素晴らしい機会でのまま継続して活動してほしい。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・いろいろな方と交流し仕事の話、組織の話、海外について、時には砕けた話をしたが全て自分にプラスだった。また海外経験は自分の価値観を大きく変えるものだった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・役割分担があるのは良かった。しかし、各自得意分野もあると思うのである程度1回役割を回したら、分担を話し合いそこに専念してもらいたいのも良いのではないかと考えた。

吉村 隆幸(UAゼンセン・ポケットカードユニオン)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・現地の衣類保管倉庫に行き、我々が送った中古衣類を確認出来、現地で必要とされる方々へ届けられ、感謝されていることが確認できた。
- ・ラオスの人々と出会えたこと。生活は貧しい人が多いが、皆さん幸せそうに見えるし、心豊かに感じた。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・目を見て挨拶をしてくれる。
- ・子供たちの笑顔と挨拶。
- ・優しく真面目な方が多い。
- ・国民の皆さんが幸せそう（心豊か）。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・非常に高く評価されていると感じました。お言葉をいただいた中に必ず「感謝」という言葉が入っていました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・スケジュールについては特段問題ないかと思います。
- ・訪問先についても特段問題はないですが、事前学習が必要であると思いました。出発時の学習会だけでは勉強不足と感じました。事前学習資料（CSA活動の歴史、ラオス全般について、ラオス語、タイ語、英語といった語学等）を強化し、現地訪問の際に、より具体的な話が出来、質疑一つにしても違ってくるかと思います。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・現地ではCSAの活動を本当に必要とされている方々がたくさんいらっしゃる事がわかった。
- ・日本でもっとこの活動を広く浸透させることが必要だと感じました。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・CSAの活動の目的である「インドシナ難民として日本に定住する人々の人権を守り、自立を促進する」、「アジアから貧困を撲滅する」を前提とした活動を行うこと。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・情報発信が少なすぎるように思います。もっと、CSAの活動を広く浸透させることが重要かと思います。
- ・過去ツアー参加者の講演会や募金活動等を行うのも一つかと思います。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

・続けることは必要だと思います。ただし、同じところばかり訪問するのではなく、訪問先や日程等も変えて継続した方がよいと思います。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

・産別を超えての交流は普段と違った刺激があり、大変勉強になりました。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

・行動しやすい人数でちょうど良かった。現地通訳の方含めてワゴン車1台で行動できたので。
・団長（挨拶）、記録、交流、写真の役割分担はよかったと思います。ただ、ツアー初日の団結式の時ではなく、事前に役割を教えていただけた方が、事前に準備等も出来るかと思います。

佐山 顯(JAM・タダノ労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

・自分たちの活動の結果を自分の目で確かめる事ができ、非常に良い経験となった。また、同行者や現地の方々とのふれあいは、今後の自分の財産になると思います。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・格差を感じた。
・私たちが接してきた人達は、失礼ながら貧しい人達でした。様々な地域、すれ違う車等を拝見する限り、貧富の差をどうしても感じました。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・CSAの活動自体は非常に感謝されている印象を受けました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

・特に問題は感じませんでした。
・強いていうなら、ラオスからタイに飛ぶ飛行機の関係もありますが、タイに到着するのがもう少し早いと良いのでは？と感じたくらいです。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

・今までの活動を継続しつつ、内容の見直しや新しい取り組みを考えて実行していければ、より良い活動になると思います。
・衣類に関しては、もう少しラオスへの分配を増やす手法を考えなくてはならないと感じました。

2) CSAは今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

・衣類送付の仕方、学校の改築の手法・支援のあり方等々、改善できる点は多くあると思います。今のやり方がダメだというのではなく、改善点は常にあるという意味で書かせていただきました。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

・正直今はいい案が思い浮かびません。ただ、多くの関係者の意見を聞き、少しずつでも改善し新しい取り組みをする事によって、より良い活動になっていくと思います。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

・継続すべきだと思います。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

・色々な人との会話は必ず財産になると思います。あとは、その本人がどう感じるかだとは思いますが。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

・良かったと思います。
・挨拶者と記録(報告書担当)を同一人物にした方が良いのではと感じます。

(理由)

同一人物にした方が報告書を書く人が写真にメインで写ると思うので、報告書の内容とリンクし易いと思うからです。

甲 斐 久 資(基幹労連・三菱重工労働組合)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

・救援衣類が現地で必要とされていることを、自分の目で確認し実感できたこと。
・小学校や高校生寮の訪問、卒業生との交流をし、生徒たちと触れ合えたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

・訪問した小学校2校とも台風で屋根が破損しており、修繕が必要であると強く感じた。(トタンでなくスレート瓦屋根を強く要望されていた)
・小学校の運動場で紙飛行機を飛ばした時の子供たちの楽しそうな姿。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

・すべての訪問先で歓迎されたこと。CSAが取り組んでいる活動は両国で高い評価を受けていると感じた。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・特に問題ありません。
- ・CSAが支援している小学校をもういくつか訪問できるといいかなと思う。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・前述の通り、ラオス・タイからは高い評価を受けていると感じるので、引き続き支援をしていくべきと考える。

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・小学校や高校生寮など損傷しているところが散見されたので、老朽化の対策（修繕）がまず必要と感じる。
- ・教師育成の支援

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・まずはこの活動の必要性について広く知ってもらうために、CSAの取り組み内容の紹介など情報の発信（広報）が必要。映像などを加えるとより効果があるのでは。（募金活動など）

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・継続していくべきだと思う。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・産別を超えて交流が出来たことはとてもよかった。さまざまな業種の方と話が出来、良い刺激となった。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・今回は団長、副団長を事前に任命し、ツアーを通して同じ人が担当するのは良いと思う。（自分は副団長で何もやっておらず申し訳ないですが……）毎朝、団長から日程と各場所での担当確認などがあり、各人の役割を再確認でき良かった。

祐 延 和 広(基幹労連・IHI労働組合連合会相生支部)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・直接関わりのある、救援衣類や募金の使途を確認することができ、この国における活動の重要性を実感できたこと。一方で、現地のニーズや衣類の分別の大変さを認識することができ、上流側での輸送前の工夫が必要であると感じたこと。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・ラオス人の人間性や民度の高さを感じられたこと。
- ・CSA高校生寮の訪問時、子どもたちから教育を受けるチャンスを与えられて非常に感謝している。との発言があり、ラオスの発展とそれぞれの夢に向けて歩んでいる姿勢を感じられたこと。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・ラオス大使館訪問時に大西参事官から、『学校を建設することは非常にいい取り組みではあるが、受け入れ側の教師の不足や維持管理には非常にお金が掛かることも認識しなければならない。』との発言を受け、評価はいただいているが、CSAの活動を維持継続していくためには、もう一歩先を見据えた支援システムの構築が必要であると感じました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・移動が多く時間管理が大変でしたが、ほぼ予定通りで良かったと思います。
- ・訪問先では、20年前に建設された学校の老朽化を目の当たりにし、維持管理の重要性を認識できたことは良かったと思います。
- ・救援衣類を直接手渡すことができたことも良かったと思います。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・ラオスにおける活動の継続は必要であると感じました。一方で、経済成長するタイ（中進国）においてはラオスほど貧困層が少なく、支援の縮小や継続の要否判断も必要ではないかと感じました。（その他の支援を必要としている国へ切り替えるなど或いは、ラオスに集中するなど）

2) CSAは今後どのような活動をすべきだと思いますか。

- ・今後は、学校の補修や維持管理、教師の育成を目的とした、募金活動の強化が必要であると感じました。また、それに伴うPRも必要だと感じました。
- ・衣類を輸送するためには、輸送費が必要になります。輸送費の募金は任意ではありますが、最終的に届かなければ意味がありません。輸送費支援に対する衣類提供者の理解が進むような取り組みも必要であると思います。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・広報活動の充実。各産別や企業に対し活動の理解を浸透させ、労働組合だけの枠を超えた取り組みも必要であると思います。さらに、ワーキングスタディツアー参加者の幅も広げることも必要であると感じました。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・国際貢献活動は現地のニーズを確認しながら継続するべきだと思います。
- ・継続していくためには、ターゲットを絞りそこに集中することも必要であると感じました。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか?

- ・他産別の方との交流は新鮮であり、それぞれの考え方や支援の方法などを聞くことができ、非常に得るものが多かったと思います。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか?

- ・団長の進行がスムーズで、しっかりと団員をリードしていただいた。参加者の年齢が近かったこともあり、交流なども団結して行えたと思います。
- ・夕食時での翌日の日程確認と、ホテルロビーでの当日の役割確認を行ったことで、それぞれが事前に役割を認識し取り組めました。
- ・次の移動時間を考慮した、それぞれの終了時間を事前に確認できれば、進行しやすくなると感じました。

宮本 亮(基幹労連・JFEスチール労働組合連合会)

1. 参加して感じたことは何ですか

1) 良かったこと

- ・ラオス国民のおだやかな民族性を感じることができたことと、CSAの活動の素晴らしさを実感することができました。
- ・また、自分自身の連帯活動への思いに変化が生じた気がします。

2) 訪問先で特に強く印象を受けたこと

- ・ビエンチャン周辺で暮らす方も、コンケオやポンサイのような奥地の村で暮らす方も、大人も子供もみんな幸せそうな表情をしていた。
- ・幸せのあり方の違いを強く感じました。

3) 現地カウンターパートがCSAの活動をどのように評価していると感じましたか。

- ・自国の発展に寄与する活動としてCSAの活動を高く評価（感謝）していると感じました。

4) 今回のスケジュールや訪問先はいかがでしたか。

- ・全体的に詰まった日程だが、内容が濃くて良かった。
- ・ルアンプラバン県教育スポーツ省から得られるものがあまりなかったように感じた。詳細の質問は学校で伺えるし、全体感は教育省で伺うことができます。
- ・その分サンティパープCSA寮の高校生との交流にもっと時間をあてても良いと感じました。ペタングなど体験してみたかったです。

2. 今後のCSAの活動について、ご意見を聞かせて下さい

1) 今回のスタディ・ツアーを通じてCSAの活動をどのように感じましたか。

- ・とても素晴らしい活動を行っているが、実際にスタディ・ツアーを経験しないと活動の素晴らしさが伝わらないと感じました。

2) CSAは今後どの様な活動をすべきだと思いますか。

- ・ 今後は寄贈した建物を維持していく活動が重要だと思います。小学校への就学人口が増えていくなれば、増設より拡大を選ぶべきだと思います。
- ・ 救援衣類に関しては現地でも継続的な支援を臨んでいるので、これまでの活動と大きく変える必要はないと思います。

3) 参加型、協働型の活動をするには、どのような工夫が必要だと思いますか。

- ・ 日本の労働組合に活動を伝えて支援の拡大を図るために教育活動が必要と思う。費用が掛からないように2時間～半日程度で活動を参加者へ伝える内容で行えるのではないか。(本当は各労組や産別で行うべきものだが。)
- ・ 出張型の研修や各産別・単組の現地視察等とタイアップした活動も効果的かと思う。

3. 今回のチームの感想と今後のあり方について

1) これからも続けた方がよいですか。

- ・ まだ支援を必要としている方が多くいます。絶対にずっと続けてください。

2) 組織を超えて交流し、得るところがありましたか？

- ・ よく同じ職場で働く仲間は、家族と同じくらいの時間帯を共にするといいますが、このツアーの参加者とは、知らない土地で朝から晩まで家族以上の時間帯を1週間共にしました。助け合い、学びあい、時にはぶつかることでかけがえのない仲間ができたと感じています。

3) チームの運営の仕方はいかがでしたか？

- ・ 記録担当と写真担当は同じ人が担ったほうが良いと感じました。



ビアラオで一息



バーシーセレモニーでいただきました